

2017年
9月吉日
第4号

フィリピン ヴィスカヤニュースレター



武蔵野のみなさん、^{ベヘッド ニ マッグオ} **Pehead ni Maagaw** (カラングヤ語でこんにちは、お昼のあいさつ)。日本は、夏の暑

さも少しづつ影をひそめている頃でしょうか。フィリピンのヌエヴァ・ヴィスカヤ州は、台風シーズンに突入しました。フィリピンは、日本同様に自然災害が多い国なので、安全第一で事業活動に取り組んでいます。

今回は、対象地域にある保健施設を再建するための活動が軌道にのってきたので紹介します。村にある保健施設をより快適に使用できるように支援する活動です。保健施設は、村に一つしかない地域が多いですが、お産施設があります。しかし、部屋が小さくお産できる環境が整っていません。そのため、お金もかかり村から3時間もかかる病院に行く母親が多く、家でお産をする母親もいるのが現状です。安全なお産ができるような環境を整え、安心してお産ができるような保健施設づくりのお手伝いをしています。

カヤパ郡知事と共に受益者数や資金などを考慮して相談した結果、バナオ村にある現保健施設の隣に新しくお産施設と病室を増設することになりました。カヤパ郡の建設担当者に協力してもらい、保健施設の設計図を作成してもらいました。カヤパ郡医師から建設に関してアドバイスをもらったり、カヤパ郡知事と資金面での支援の協力をお願いしたりするなど、複数の関係者が関わりながらこの活動が成り立っています。活動するには、地域の協力が必要不可欠です。地域の脆弱性を改善するという目標に向かい、地域とともに活動する赤十字医療支援事業が地域に根付き、実を結んで強く育っているんだと感じました。

バナオ村にある保健施設
中央の写真がお産部屋



カヤパ郡医師から保健施設建設
に関して助言をもらっています

事業地であるカヤパ郡に住む人たちは主に野菜を生産して生活しています。村の住民の自慢は、「無農薬の野菜」です。カヤパ郡でとれる多くの野菜は、栄養素が高く病気になりにくい身体を作ってくれるので、癌や脳卒中にかかる人はほとんどいません。カヤパ郡へ立ち寄る際には、ぜひ試してください。瓜の様な食感とほんのり甘い味が特徴です。



↑ ウボ (30cm あります)
サヨテ(木になる野菜)→

アン アミィ
An Amih (カラングヤ語でおいしい)

文責：看護師 高田亜由子